
金色のガッシュ！！NEXT

疾風のごとく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金色のガッシュ！！NEXT

【Nコード】

N5116E

【作者名】

疾風のこたく

【あらすじ】

ガッシュと別れて一週間。高嶺清磨が高校から帰ってくると机には一冊の本があった。そしてガッシュとの新たな冒険がはじまる

LEVEL・1 一週間後

俺の名前は高嶺清麿、今日は高校の入学式の次の日だ。

ガツシュやみんなと別れて一週間が経つ・・・筈だったのだが。

清麿

「どうして《この本》があるんだ」

この本とは、魔界の文字で書いてある本のことだ。そしてその本は
“赤”色・・・つまりこの本はガツシュの本だと思う

????

「おお、帰っておったのか清麿」

そこには金髪で緑のマントを着ている子供がいた。その子の名前は
ガツシュ・ベルだ。

清麿

「おまえどうしてここに？」

ガツシュ

「人間界にくる方法がわかったのだ」

俺はショックだったなぜなら、ガツシュが魔界に帰ってから一回だけ送ることが出来る手紙に人間界に行く方法をいつか見つけると書いてあったのだがあまりにも早かったのでショックだった

清麿

「早かったな。それで、人間界にくる方法はなんだったんだ？」

ガッシュ

「それは、私が王様を辞めることなのだ」

清麿

「なるほど」

おれはつい関心してしまったがよく考えると

清麿

「お前、それでよかったのか」

ガッシュ

「ウヌ、私はやさしい王様なのだから」

清麿

「そうか、それでもう一度王様を決める戦いをするのか」

俺は心配になったがその心配は立ち消えになった

ガッシュ

「いや、今回はルールがぜんぜんちがうぞ」

ガッシュの話聞く限りでは、本を燃やされた場合人間界に残ることができるがそれは一回まで（残らなくてもいい）

その場合誰かが優勝するまで魔界にはもどれない

魔物の数は100体で変わらない

たとえば誰が優勝してもガッシュが王様になるというルールになっている今回は

清麿

「パートナーはどうなっているんだ」

いま一番気になることを聞くと

ガッシュ

「それは魔物が決めているぞ」

清麿

「よかった」

俺は早速恵さんやサンビームさんやナゾナゾ博士（そういえば本名はなんだろう）などに電話したらやっぱりティオやウマゴンやキッドはもうきていた、早いところでは3日前には来ていたらしい。しかし、みんな、どうして知っているのと聞いてきたがふざけているのだと思って軽く流すことにした

清麿

「だとするともう襲ってくるやつがいることか」

ガッシュ

「ウヌ」

清麿

「ところでつかえる術は」

ガッシュ

「これを読めばわかるぞ」

俺は赤い本をわたされた

清麿

「ふむふむ。ん、どうしてシン・ベルワン・バオウ・ザケルガがつかえてジオルクが使えないんだ、ま、いつか」

そこに忍び寄る影があった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5116e/>

金色のガッシュ！！NEXT

2010年10月18日20時06分発行